

## 島根県の地震データベース

まとめ：島根大学大学院総合理工学研究科・丸田 誠 教授

島根県に被害を及ぼすタイプの地震は①陸域の浅い場所で発生する地震（活断層型地震），②南海トラフで発生する地震と考えられる。

①に関する地震が島根県では主な被害をもたらす地震と言える。過去の主な例を，表 1 に示す。表 1 で安政の南海地震，昭和 21 年の南海地震（ともに南海トラフ地震）および平成 13 年の芸予地震（プレート内地震）以外は①の地震である。

表 1 島根県に被害を及ぼした主な地震

西暦(和暦)	地域(名称)	M	県内の主な被害(カッコは全国での被害)
880.11.23(元慶 4)	出雲	7.0	神社，仏閣，家屋転倒す。
1676.7.12(延宝 4)	石見	6.5	津和野場などに被害。死者 7 人，負傷者 35 人，住家倒壊 133 棟。
1854.12.24(安政 1)	(安政南海地震)	8.4	出雲杵築大社で潰 150 棟。
1859.1.5(安政 5)	石見	6.2	那賀郡，美濃郡で揺れが強く，波佐村，周布村，美濃村などで家屋倒壊 56 棟。
1859.10.4(安政 6)	石見	6.0~6.5	那賀郡で揺れが強く，周布村で家屋倒壊数戸。
1872.3.14(明治 5)	(浜田地震)	7.1	死者 551 人，負傷者 582 人，家屋倒壊 4,506 棟，同焼失 230 棟。海岸で海水変動あり。
1946.12.21(昭和 21)	(南海地震)	8.0	死者 9 人，負傷者 16 人，住家全壊 71 棟。
2000.10.6(平成 12)	(平成 12 年(2000 年) 鳥取県西部地震)	7.3	負傷者 11 人，住家全壊 34 棟。
2001.3.24(平成 13)	(平成 13 年(2001 年) 芸予地震)	6.7	負傷者 3 人。

(日本の地震活動－被害地震から見た地域別の特徴－ 第 2 版 から)

島根県では今後 30 年以内で震度 6 弱以上の活断層型地震に見舞われる確率はやや高いとの推定報告もある。島根県の活断層は宍道湖周辺には分布しているが，C 級であり活動度は低い，また他には目立った活断層は見当たらないとされている。しかし，明治 5 年の浜田地震の時には，日本海中の活断層が動いたとされている。また三瓶山周辺では，地震活動に伴うとされる体を感じない地震が数多く観測されている。活断層に関しては今なお調査が十分とは言えず，断層が見えなくとも大きな揺れを伴う地震（平成 12 年鳥取県西部地震など）

が発生することが考えられるので十分な注意は必要である。

過去の②に関する地震では、1946年の南海地震で、出雲平野で死者9名、家屋全壊71棟の被害が生じた。1854年の安政南海地震でも出雲地方で強い地震による被害があったと言う記録もある。(表2参照)

内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」からは、強震波形4ケースと経験的手法の震度の最大値予測より震度5弱の揺れは広範囲に生じることが示されている。(図1) よって耐震性能の低い建物や老朽化した建物等では、南海トラフ地震により、人的および建物に被害が生じると考えられる。

### 島根県の住宅の耐震化率

島根県の住宅耐震化率は平成20年度調査において65%程度と全国で最も低い。全国平均79%に比べ14ポイントも低い。これは、第二次大戦で被害が少なく古い建物が多い、少子高齢化率が高く、次世代へ耐震化対策を取っていないということに基づく。また空家率も平成20年調査で14.9%であり、全国平均の13.1%より高い。

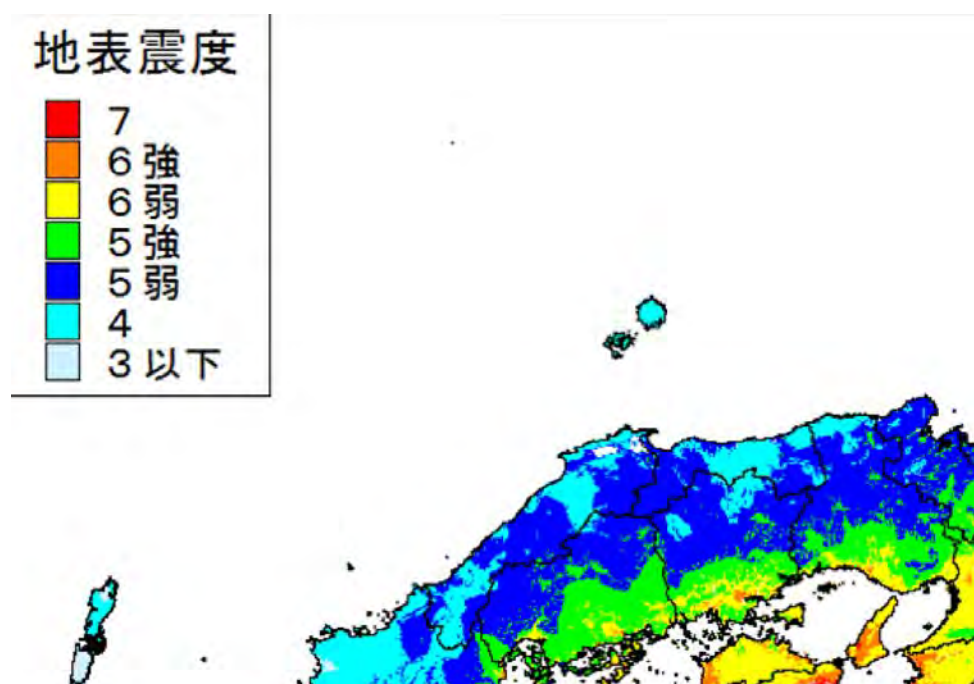


図1 南海トラフ地震による島根県の震度予想  
(内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」公表資料から)

図2に住宅の耐震化の推移を示す。県では平成27年度に耐震化率90%を目指しているが現実的に厳しい状況にある。

現在、島根県は耐震化率向上のために耐震改修促進税制の活用や市町村でも耐震診断・耐

震改修制度を充実させている。また、啓蒙活動も積極的に行っているが、地震に備え早急に対応を行うべきである。

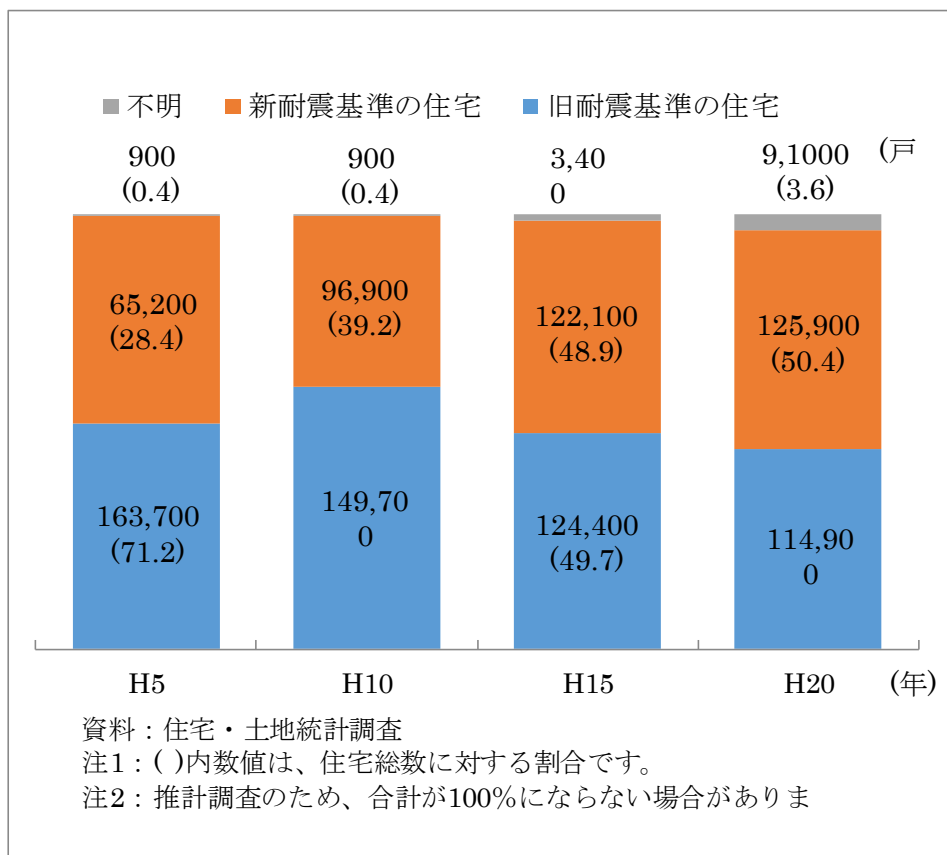


図2 旧耐震基準住宅の推移（島根県住生活基本計画から 県のHP）

表2 山陰における被害地震の記録一覧

発震年月日	震源地		規模 (M)	被害状況		文献
	北緯	東経		地域	概要	
天武4年11月 675				鳥取県	詳細不明(大地震とだけ記載)	鳥取震災小誌
天武12年10月 683				鳥取県	詳細不明(諸国大地震と記載)	鳥取震災小誌
天平6年734				鳥取県	「地震、山崩れ人多く死す」と記載	鳥取震災小誌
元慶元年877				鳥取県	「大地震にて因州酒賀神社破壊す」と記載	鳥取震災小誌

①	元慶4年10月 880.11.23	35.4 35.1	132.8 132.1	7.4 6.4	出雲(雲南)	神社仏閣家屋倒壊破損多し	理科年表 島根県の地質
	元慶4年10月 880.10.14				鳥取県	詳細不明(大地震とだけ記載)	鳥取震災小誌
	元慶元年夏 938				鳥取県	詳細不明(大地震とだけ記載)	鳥取震災小誌
	貞元元年6月 976				鳥取県	詳細不明(大地震とだけ記載)	鳥取震災小誌
	万寿3年5月 1026.5.23				島根県(益田)	加も島陥没, 石見地方沿岸に大被害, 万寿の大津波	益田市史 県災年表
	慶長元年7月 1596.8				島根県(全域)	詳細不明(大地震とだけ記載)	県災年表
	寛永4年1月 1627.1.11				鳥取県	詳細不明(大地震とだけ記載)	鳥取震災小誌
	寛永4年8月 1627.9.4				島根県(出雲東部)	詳細不明(大地震とだけ記載)	広瀬町史
	寛永6年1月 1929.1.21				鳥取県	詳細不明(大地震とだけ記載)	鳥取震災小誌
	寛永9年12月 1632.2.4				島根県(出雲)	詳細不明	県災年表
	寛永10年1月 1633.2.20				島根県(出雲) 鳥取県	詳細不明, 鳥取震災小誌に大地震と記載	県災年表 鳥取震災小誌
	寛文6年5月 1662.5.1				鳥取県	大地震にて法美郡岡*のせ軌道破壊す	鳥取震災小誌
②	延宝4年6月 1676.7.12	34.4 山口県	135.9	6.6	島根県(石見西部)	津和野城崩れる, 家屋土蔵倒壊133, 死7, 傷35	理科年表 その他
	延宝8年5月 1680.6.2				島根県(石見)	詳細不明(大地震とだけ記載)	江津市史
	宝永4年10月 1707.10.28	33.2 南海道沖	135.9	8.4	島根県(全域)	出雲地方大地震潰家130, 川本地域人民難渋す	理科年表 その他
	寛延元年5月 1778.2.14				島根県(出雲)	松江鶉牢橋壁崩, 橋落	松江市 県災年表
	宝暦元年7月				島根県	浜田地方に大地震, 余震は10	桜江町史

	1751.9.4				(石見)	日ごろまで続く	弥坂村誌
	安永 7 年 1 月 1778.2.14	34.6	132.7	6.6	島根県 (石見)	那賀郡波佐村で岩垣崩れる	理科年表 その他
	寛政 7 年 11 月 1795.11.				鳥取県	詳細不明(大地震とだけ記載)	鳥取震災小誌
	天保 9 年 12 月 1838.1.24				島根県 (石見南 部)	23 日夜地震, 24 日夜大地震, 26 日まで揺れる	安田村史 益田市史
	安政元年 11 月 1854.12.23	33.2	135.6	8.4	島根県 (全域)	出雲潰家 200, 石見は大地震の 記載のみ	理科年表 その他
	安政元年 1854				鳥取県	伯州大地震, 諸州破壊す	鳥取震災小誌
	安政 3 年 11 月 1856.12.9				島根県 (石見西 部)	夕方大地震, その夜揺れ続き避難, 年内小屋生活	安田村史 益田市史
	安政 5 年 12 月 1859.1.5	34.7	131.8	5.9	島根県 (石見)	美濃郡, 那賀郡で潰家 10 数戸, 山崩れ, その他	理科年表 その他
	安政 6 年 9 月 1859.10.4	34.7	131.9	5.9	島根県 (石見)	美濃郡, 那賀郡で潰家, 山崩れ など小被害	理科年表 その他
③	明治 5 年 2 月 1872.3.14	34.8	132	7.1	島根県下 全域 ; 浜田 大地震	死者 552, 傷 35, 全壊 6152, 大破 6734, 焼失 230, 山崩れ 6567, 他	理科年表, 浜 田市史, その 他
	明治 37 年 6 月 1904.6.6	35.2	133.1	5.4	島根県 (宍道湖付 近)	伯耆・出雲強震域, 壁・道路・ 堤防の亀裂, 地割他	地震研
	明治 38 年 12 月 1905.12.8				島根県 (石見西 部)	土蔵の壁, 石垣の崩れ, 道路の 亀裂等	日原町史 美都町史
	大正 3 年 5 月 1914.5.23	35.2 35.3	133.1 133.2	5.7 5.8	島根県 (出雲東 部)	時計停止, 液体溢出, 壁・道路 亀裂	地震研
	大正 14 年 5 月 1925.5.23				鳥取県	但馬烈震にて相当震揺す	鳥取震災小誌
	大正 14 年 7 月 1925.7.4	35.5	133.3	5.8	島根県 (美保湾)	境・米子強震域, 壁・道路・堤 防の亀裂, 地割他	地震研
	昭和 2 年 3 月 1927.3.7				鳥取県	丹後烈震にて相当震揺す	鳥取震災小誌

	昭和 16 年 4 月 1941.4.16	34.6	131.6	6.2	島根県 (石見西 部)	須佐・田万川町方面の県境付近 に小被害	地震研
④	昭和 18 年 9 月 1943.9.10			7.2	鹿野町・鳥 取市鳥取 大地震	死者 1083, 傷 3860, 全壊 13295, 半壊数 14110, 全焼失 289, 反 焼失 10	鳥取大災害史
	昭和 21 年 12 年 1946.12.21	33	135.6	8.1	島根県 (全域)	死者 9, 傷 16, 全壊 273, 半壊 245(津波被害)	地震研
⑤	昭和 25 年 8 月 1950.8.22	35.2	132.7	5.3	島根県 (三瓶山東 方)	家屋倒壊・傾斜, 地割れ, 崖崩 れ, 他	地震研
⑥	昭和 53 年 6 月 1978.6.4	35.1	132.7	6.1 5.3	島根県 (三瓶山南 東)	半壊 4, 一部破損 150, 道路被 害 48, 他	地震研
⑦	平成 12 年 10 月 2000.10.6	35.2	133.2	7.3	鳥取県 (米子市)	死傷者 0, 負傷者 182, 全壊数 395, 半壊数 2583	鳥取西部地震 の記録

表3 表2の中でも特に目立った地震

		年代	時刻	名称	場所(震源)	最大深度 (マグニチュード)	地震の種類	余震回数	災害規模	備考
①	平安	880年 10月14日		出雲国地震	宍道湖西方付近(北緯35度 4分東経132度8分)	M7.4				荻原博士らの見解ではM6.3～M6.6程 度の震度で震源地は北緯35度1分、東 経132度1分と大地震ではなかったと の報告もある
②	平安	1026年 5月23日	真夜中	万寿の大 津波			陥没地震			
③	江戸	1676年 7月12日		津和野の 地震	北緯34度5分東経131度8 分	M6.5			負傷者35名；死 傷者7名；全壊数 133棟	
④	明治 5年	1872年 2月6日	午後4時 30分過ぎ	浜田地震	浜田付近	M7			死傷者551名	
⑤	昭和 18年	1943年 9月10日	午後5時 36分57秒	鳥取地震	鹿野町と鳥取市とを連なる 東西に長き地帯の直下(吉 岡温泉と洞谷部落の間)	6強(M7.2)			負傷者3259名； 死傷者1083名； 全壊数7485棟； 半壊数6158棟； 全焼数251棟； 半焼数16棟	1億6千万円(鉄道、電信、電話、水 道、電気等含まず)
⑥	昭和 52年	1977年 5月2日	午前1時 23分	三瓶山付 近の地震	三瓶山北東約10km北緯 132度42分、北緯5度 9分)震度10km	震度4(M5.3) (*一部では震度5 との推察あり)				昭和53年6月4日(AM5:04)にも 頓原町を中心とした地震が発生
⑦	平成 12年	2000年 10月6日	午後1時 30分18秒	鳥取県西 部地震	鳥取県米子市南方約20km (北緯35度16.4分、東経 133度20.9分、深さ9km)	6強(M7.3)	直下型地 震、左横ず れ断層型	1316回	負傷者182名； 全壊数395棟； 半壊数2583棟	

#### ①出雲国地震

元慶4年10月14日(880年11月23日)に官舎、民屋が多く倒壊した。同日、京都も強く揺れた。

理科年表では、M7.4で震源地は宍道湖西方付近(北緯35度4分、東経132度8分)であった。資料日本被害地震総覧では、M7.4で震源地は東出雲付近(北緯35度4分、東経133度2分)であった。萩原博士らの研究では、M6.3～M6.6程度で、震源地は大原郡南西部付近(北緯35度1分、東経132度1分)で大地震ではなかったと記述している<sup>1)</sup>。

#### ②万寿の大津波(石見)

明治5年の石見地震では、湯の谷泉源池の泉温が急上昇し、50度以上になった。5月23日の真夜中に高津・中津沖の石見潟が一大鳴動を起こすと同時に、鴨島が陥没し、大津波が襲来して、石西沿岸の各村に大損害を及ぼした。この大津波は、明治5年にM7を記録した浜田地震の時の津波以上のものだった<sup>2)</sup>。

#### ③津和野地震

1676年7月12日の大地震により、天守閣(津和野城)が倒壊した。M6.5で死者7名、負傷者35名、住家倒壊133棟であった。震源地は北緯34度5分、東経131度8分である<sup>1)</sup>。

#### ④浜田地震

明治5年2月6日(1872年3月14日)午後4時30分過ぎ、浜田の北西海底を震源とする大地震が発生した。当時の浜田測候所長石田雅生氏によって詳細に調査された記録が文<sup>4)</sup>に示されている文献<sup>4)</sup>による当時の濱田縣における被害の届出は以下の通りである。

表4 浜田地震における被害一覧

種目		郡別						計	浜田町
		那賀	邇摩	安農	邑智	美濃			
用畑損所	(畝)	22191	25375	3768	18434	785	80914		
岸崩	(所)	11016	-	-	-	-	11016		
田方水源	(畝)	11314	-	-	-	-	11314		
外	(所)	23	-	-	-	-	23		
堤防水除	(所)	5784	455	101	2603	826	9769		
溜池用水破損									
道路破損	(所)	1637	406	53	1373	207	3911		
橋梁破損	(所)	157	63	11					



山崩	(所)	2522	1487	124	1927	507	6567	
焼失家	(軒)	188	19	3	20	-	230	92
倒家	(軒)	2303	742	440	485	79	4049	543
半倒	(軒)	2396	1294	671	868	200	5429	210
大破	(軒)	2391	2317	2026	-	-	6734	168
顛倒焼失若 破損	(棟)	125	3	-	-	-	128	
郷倉								
同 土 蔵	(棟)	262	72	85	-	-	419	
死亡人員	(人)	280	137	32	80	-	537	97
負傷人員	(人)	378	101	18	75	2	574	201
斃死牛馬	(頭)	28	38	22	21	-	109	
牛馬負傷	(頭)	25	31	4	8	-	68	

内訳は以上で、焼失した建物 230 棟、倒壊した建物 4049 棟、半壊した建物 5429 棟、大破した建物 6734 棟、死亡者 537 名、負傷者 574 名であった。<sup>4)</sup>

文献<sup>4)</sup>には土地の変動についても「東は出雲平野の一角にあたる旧遥堪村入南部落の高知屋久 5 町歩が 11m(丈尺を m に換算)も低くなり、反動として西方旧荒木村字北荒木の一部が隆起、旧その村では 1 町 3 反の土地が沈み、久村字砂子の高さが 6 m の丘が全く陥没して池となり、反動として周囲の土地が隆起した。さらに石見沿海地域の龍没状態は広範囲にわたっており、黒松海岸では宅 1.8m 沈下、渡津から江津沿岸はやや隆起、久代海岸は 0.6m~1.8m、松島・金周布辺は、1.2m~1.5m、曇ヶ浦は 0.9~1.2m、唐鐘海岸は、1.5m~1.8m、何れも隆起した。下府においては約 50m 間が 0.3m 陥没し、ここよりはまだの沿岸分は一般に沈下した。すなわち生湯の海岸一帯は 0.5m 陥没し、松原浦で平均 1.2m、瀬戸ヶ島で 0.9~1.2m、浜田川右岸地域は約 0.6m、城山のごときは 3m に達する沈下をみた。一方、青川付近では 1.5m 隆起し、長浜沿岸は 0.9~1.2m 沈下、周布沿岸は異常なく、折居海岸で約 0.9m 陥没したほかは異常なし」と詳しく示されていた。

#### ⑤鳥取地震

1943 年 9 月 10 日午後 5 時 36 分 57 秒に鹿野町と鳥取市とを連なる東西に長き地帯の直下(吉岡温泉と洞谷部落の間) 辺りで、(地下 10km 程度の位置) 地震が発生し鳥取市に壊滅的な被害を与えた。鳥取市で M7.2 (震度 6 強) を記録し、震度 5 を示す地域は岡山県まで及び、余震は倉吉市の周辺に多く発生していた。重傷 669 名、軽傷 2590、死者 1083 名、全壊数 7485 棟、半壊数 6158 棟、全焼数 251 棟、半焼数 16 棟であった。都市別の内訳を表 5 に示す。旧鳥取市内を中心に被害が大きく全被害の 8 割が集中した。被害が大きかった要

因として、地盤が千代川の沖積平野で砂と年度の層であったこと、建築物は雪を防ぐために屋根が重く、水害等の影響でその基礎が傷んでいたなどが考えられる<sup>5)</sup>。

被害総額は、1億6千万円（鉄道、電信、電話、水道、電気等を含まず）に及んだ。各被害について、文献<sup>6)</sup>に示されており、土木関係施設の被害概略は表6に、鉄道関係被害について表7、8に示す。表8に示されるような鉄道被害のほとんどは日本海沿岸を通過する山陰本線に集中していた。表7の鉄道路線における地盤の被害事例から、日本海沿岸の路線では路盤沈下、陥没などが大規模な液状化によって引き起こされたことや、土砂崩壊があったことが分かった。

表5 鳥取地震における各地区の被害一覧

都市別	死 (人)	重症 (人)	軽傷 (人)	全壊 (戸)	半壊 (戸)	全焼 (戸)	半焼 (戸)
鳥取市	854	544	1988	5754	3182	250	16
岩美郡	56	12	137	694	916	-	-
八頭郡	49	11	15	3	28	-	-
気高郡	120	100	450	1014	1703	1	-
東伯郡	4	2	-	20	329	-	-
計	1083	699	2590	7485	6158	251	16

表6 鳥取地震の土木関係被害

項目	被害状況
道路	被害が多く、路面沈下や亀裂が至る所で発生；法面の崩壊や山腹の地すべり・崩壊，土石等による陥没・決壊
橋梁	落橋，橋脚・橋台の沈下，折損，高欄の倒壊
河川	堤防では堤体の沈下・亀裂・法面の崩壊等 護岸では石積みの亀裂
港湾	防波堤の沈下・亀裂
鉄道	地盤の陥没，線路の歪曲，トンネル崩壊 鉄橋破損
通信	電柱の折損・倒壊・傾斜・架線の切断等 (市内回線の大半及び市外回線，電信警察電話は不通。鉄道電話のみ使用)

表7 鉄道被害事例

被害区域	被害状況
山陰線天神川橋梁	沈下 2cm, 軌条 11cm 移動
泊駅構内	深さ 1cm 陥没
泊駅入り口	深さ 2cm 陥没
青谷駅出口	深さ 3cm 陥没
浜村, 青谷間	路盤沈下 3 箇所
宝木, 浜村間	深さ 1m 陥没
水尻トンネル入り口前	10 箇所の地盤沈下
宝木, 白兔間	深さ 5m 陥没, 土量 10000 立方メートル
白兔駅(臨時駅構内)	深さ 1.5m 陥没, 土量 1000 立方メートル
末恒駅構内	深さ 1m 陥没, 土量 600 立方メートル
同駅中心に 180m の区間	最大深さ 2m 路盤沈下
湖山, 末恒間	砂丘部分の滑り出し, 最大 60cm の沈下, 線路は 3cm 移動
鳥取, 塩見間	切土部分崩壊, 土量 6000 立方メートル
塩見, 岩美間	深さ 3m 陥没, 土量 6000 立方メートル
榎峠トンネル入り口付近	高さ約 30cm に及ぶ切取法面の上部約 8m 高の土砂が落下し, 軌道が陥没

表 8 鉄道路線別の被害状況

被害/路線別	山陰本線	因美線	倉吉線	若桜線	計
路線亀裂	11	-	-	-	11
線路移動	5	-	-	-	5
築堤沈下	5	2	-	-	7
土砂崩壊	6	2	-	-	8
路盤沈下・陥没	57	2	6	3	68
橋梁沈下	13	-	1	-	14
石垣崩壊	6	1	-	-	7

⑥ 三瓶山

三瓶山を震源地にしたものが, 昭和 5 年 12 月, 昭和 25 年 (8 月 22 日) に 3 回, 昭和 27 年に 1 回ある。三瓶山南方を震源地にしたものが, 昭和 28 年に 10 回ある。江の川上流を震源地にしたものが, 昭和 27 年に 1 回ある。その他には, 昭和 29 年 5 月に三瓶山付近 (神戸川上流) を震源地にする地震が毎日のようにあった。5 月 8 日午後 5 時 26 分が第 1 回で, 16 日まで連日余震が続いた。

昭和 52 年 5 月 2 日の三瓶山付近の地震の概況について述べる。5 月 2 日 1 時 23 分県中部三瓶山北東約 10km（東経 132 度 42 分，北緯 5 度 9 分）深度約 10km を震源とするマグニチュード 5.3 の地震が発生した。震度は 4，一部では震度 5 と推定された。

白鳳 13 年（684 年）10 月 14 日午後 10 時頃，全国で大地震があった。三瓶山もこのとき激しく鳴動した<sup>7)</sup>。

昭和 53 年 6 月 4 日午前 5 時 4 分地震に襲われた。三瓶温泉街では 12 軒のホテル，旅館に宿泊していた 1000 人余りのお客さんが，びっくりして仰天して屋外へ飛び出した。震源地は，頓原町沖ノ郷付近の地下 10km の地点で，M5.75，震域は三瓶山を中心に 4 市 11 町村に及んだが，被害は山麓の 93 戸（内 2 戸半壊）などのほか，市道，県道に割れ目が入るなど，ふもとは一時パニック状態になった。この時の余震は 4 日 7 回，5 日 11 回，6 日と 7 日は 4 回というふうに分々と終息した。被害額は 2 億 1200 万円だった。

#### ⑦ 鳥取県西部地震

2000 年 10 月 6 日午後 1 時 30 分 18 秒に鳥取県米子市南方約 20km（北緯 35.3 度，東経 133.4 度，深さ約 10km）で地震が発生した。M7.3（震度 6 強）で負傷者 182 名，死者 0 名，全壊数 395 棟，半壊数 2583 棟であった（表 9）。震源に近い日野町の震度は 6 強，地震観測では最大加速度  $9.27\text{m/s}^2$  を記録している。震源に近い下榎地区の建物の 9 割は，在来構法の 2 階建て，和瓦屋根の木造住宅である。その木造住宅の 90%は屋根瓦の被害を受けている。下榎地区は，黒坂，下黒坂，根雨などの近くの激震地区に比べても被害の程度は大きい<sup>8)</sup>。

表 9 県別の人的・物的被害の状況（2001 年 5 月 2 日現在）

県別	人的被害	物的被害
鳥取県	負傷者 141 名	住家全壊 389 棟，住家半壊 2467 棟，住家一部破損 12912 棟，非住家公共建物 124 棟，非住家その
島根県	負傷者 11 名	住家全壊 34 棟，住家半壊 567 棟，住家一部破損 3465 棟，文教施設 188 箇所，病院 22 箇所，プロ
岡山県	負傷者 18 名	住家全壊 7 棟，住家半壊 31 棟，住家一部破損 768 棟，非住家公共建物 79 棟，非住家その他 38 棟，
香川県	負傷者 2 名	住家一部破損 2 棟，非住家その他 3 棟
広島県	負傷者 3 名	住家一部破損 6 棟，非住家その他 1 棟，文教施設 172 箇所，病院 3 箇所
山口県	負傷者 1 名	住家一部破損 1 棟

兵庫県	負傷者 1 名	
大阪府	負傷者 4 名	住家一部破損 1 棟
和歌山県	負傷者 1 名	
合計	負傷者 182 名	

鳥取県の被害として、米子市、境港市では地盤の液状化による地盤沈下と測方流動の影響による被害が顕著であり、特に、比較的新しい住宅団地、工業団地の液状化による被害が顕著である。しかし、振動による被害は比較的小さい、その中で境港市の木造の上道神社は崩壊しているが、この神社付近の灯籠や墓石はすべて東西方向に転倒しており、振動方向が明確に判断できる。しかしながら、震源を囲む山間部の各市町村では、震源に近いところで計測震度は大きいものの、建築物の被害は木造住宅の瓦屋根の被害が中心である。特にほとんどの被害は、全壊数の 30～100%になっている。非木造建物の大半は学校建築と公共建築であるが、これらの被害は、ほとんどが窓ガラスの破損、柱、壁の軽微なひび割れ、鉄骨ブレースの座屈、内外装材の損傷である、大破、崩壊した非木造建築は 2 棟のみである。

#### 参考文献

1. 鳥根県の地質（昭和 60 年 8 月 1 日）
2. 益田市誌（上巻）（昭和 50 年 12 月 20 日）
3. 日本付近のおもな被害地震年代表 【地 142】  
<http://pub.maruzen.co.jp/index/kokai/rikanenpyo/chi142.pdf>
4. 鳥根県既往の災害並二豪雨調（昭和 9 年 3 月）
5. 余田隆司他，鳥取地震被害報告-地盤災害-，鳥取大学工学部研究報告 31 巻，2000，pp51-56
6. 西田良平他，鳥取地方の地震と活断層，1991 年 3 月，pp3-11
7. 三瓶山 歴史と伝説（昭和 59 年 8 月 石村 禎久）
8. 日本建築学会：2000 年鳥取県西部地震災害調査報告・2001 年芸予地震災害調査報告（2001 年 10 月 1 日）